

水俣病に考える

(15)

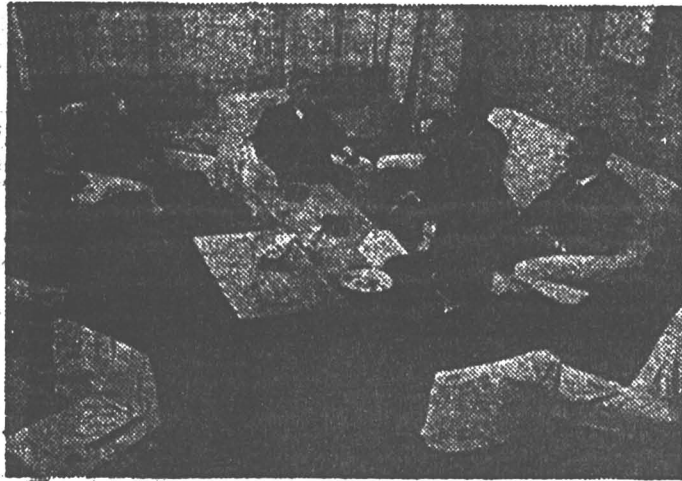
水俣病は発生してから十数年、解決して過ぎ去った問題ではないと思われ、病状自体、既に治癒傾向が明らかである。

水俣病に学ぶもの

水俣病は今日の健康を脅かしていると考えます。水俣病を振り返り、決して起こしてはならない、第二の水俣病への警句としたいと考えます。まず大規模調査の現在の研究について

い

原因物質についての究明が終っただけの段階で、今後の治療面や、さらに起こるかもしれない公害対策へ方向をすすめている。化学工業の発達から水俣病に類似した新しい病気が次々に起るであらうと推測しておられる。先の三川製紙工場一帯に発生した水俣病を、アツンされてきたが、これは結果として、ものに考えられていた



右端から大橋、浮池、三沢、伊藤、忍那、武内、内田、徳臣の各氏(本社で)

水俣病は発生してから十数年、麻痺中環、それに近頃はサリドマイド事件など新しい問題が出てきている。われわれは水俣病の研究内容に迫ると備付している。さらに広い意味の中環、薬田研究に乗り出さねばならない。今後の問題も含んで、さらにしつかりした、研究施設、の必要を感じた。幸いこんどの事件についても、機能訓練、にかかっている。最後の決め手はなんかない。現在の治療面の決め手は

る。今水俣で建設中のリハビリテーション・センターは結構な企画だと思つた。大橋 先の別村における治療で、あけなかつた子がある程度返ける

政府も公害に責任を

発生時の措置はりっぱ

がこれの指針に当たっている。根本的な水銀浄化は期待できないものですか。徳臣 ことわられた胸の細胞を急に、変で元に戻すことは困難な

出席者

- 熊大医学部長 忍那 将愛氏
- 熊大教授(物理学) 武内 忠男氏
- 熊大教授(生化学) 内田 慎男氏
- 熊大助教授(内科学) 徳臣晴比古氏
- 県医務課長 伊藤 蓮雄氏
- 水俣市立病院院長 大橋 登氏
- 水俣・豊北医師会長 浮池 正基氏
- 新日産水俣工場総務部長 三沢 隆夫氏
- 聞き手・本社 福田編集局長
- 筑紫報連部副部長

る。その焼つた細胞をお互い、遠く、し合わせて欠を補わせる。その欠を補わせるのが、機能訓練に当たるわけだ。——と、こんどの水俣病から貴重な教訓がいろいろあると思

内田 工場は法術に従って建てられた。それに水俣病は起こった。公害の一つのテストケースとしても研究しておく必要がじゅうぶんある。水俣病問題、新日産市建設の中の一つの問題として、もう一歩をのけて調査するようしむけるべきだと思つた。

武内 医者本来の人命尊重という目的から放つておけなかつたわけですね。しかし研究を大学に持つてこられたのは良かったと思つた。伊藤 あの時の措置は、黒鉛が浦段に落ちた時、はち馬が飛んで江戸政府がとつた措置以上に良かったと思つた(笑)。その時考え

たのだが、保健所は地元の医師会と絶えず連絡し合つておくことの必要を感じた。大橋 公害、といふことに、もう少し政府が、責任を感じて、もう少し金が出るようになったら、生活保護を切つてみたり、こ

んど取用の補給をつくるにしても、同は原因が工場にあるんだから工場から補助して、もう、地方病、いかにしかおきていない。工場側の責任を決定する必要があるとして、現在がきつて、

三沢 公害または、その防止のために各事業体が、共同もしくは連合して、国家の助成金を基に研究機関をつくること、これは今のところ、まだないようだ。いずれも個別企業における解決にた

らうては、その方向にも、いかに必要があり、

よつた。武内 しまり今は焼つた神経細胞で生きていられる。あるものは、もう、たつと破壊されている。一人入れ、内容、形、外科の医長、また全部でなく一部やられてい